

医療技術教育に対する高校生の認識と関心に関する研究

太田武夫 下石靖昭 景山甚郷 渋谷光一 唐下博子 遠藤 浩

要 約

1996年7~9月にかけて、岡山県周辺の10県下高校普通科3年在学中の学生に志望進路、志望分野とともに大学、短期大学における医療技術教育への認識と関心についてアンケート調査を行った。サンプリングによって依頼した127校のうち回答が得られたのは52校(回収率40.9%)で、得られた回答数は合計1,998人(男子891人,女子1,077人,不明30人)であった。これらの分析から、これらの地域では進学志望者の率は高く、特に男子に著名で、男女ともに理系への志望が多いことを認めた。

医療技術系大学の認識は看護学科を除いて低く、関心も特に男子で低かった。4年制大学の進学を志望する学生にとっては、3年制の多い医療技術系短期大学には関心が寄せがたく、4年制へ移行した場合には関心も志望も高まる事が認められた。

将来この分野を担う人材の確保には現在の医療短大の4年制化や医療技術職の待遇改善が重要であると結論づけた。

キーワード：医療技術教育, 高校生, 短期大学, 大学, 進学

はじめに

1987年(昭和62年)に発足した大学審議会は、以降文部大臣の諮問を受けて種々の答申を行ってきた^{1,2)}。そしてこれらの答申を受けて各大学等高等教育機関においてもこれまで多様な改革を進めてきてきた¹⁻³⁾。

1987年に創立された本学は、創設期がちょうどこれらの改革の時代に当たっていたため、定着と改善を不断に進めてきた時代でもあった。この間、専攻科の学位授与機構による認定、看護学科における指定規則改正に伴うカリキュラムの改訂、推薦入学制度の導入(看護学科)が行われたが、さらに1991年(平成3年)の答申「大学教育の改善について」による提案に基づき、自己点検・評価システムの導入、シラバスの作成などにもいち早く取り組んできた^{4,5)}。そして1996年現在も、これらの趣旨に沿って、全学科のカリキュラム改訂、取得単位の見直し、推薦入学制度の拡大(衛生技

術学科における導入、看護学科の衛生看護学科卒業生への特別専攻枠の設定)などを来年度に実施すべく準備を進めている。

さて、1989年(平成元年)の看護婦課程の改正にいたる背景として、「急速な医学・医療の進歩に伴い、看護職者は専門的知識や技術とともに優れた観察力や判断が要求されるようになった」ことや「高学歴化社会において、ターミナルケア等病気についての関心の高まりの中で、看護職者には、一般的な知識の提供だけでなく、これらに対応できる幅広い人間性が求められてきている」ことがあげられている⁶⁾。その後、各地に4年制の看護学科の新設や短期大学部の4年制への移行が行われたのは、このような時代の要請に応えるとともに、需給見通しを推進するための養成力の拡充を計ろうとしたものであることはいままでのない。

また本学は、中四国において多くの人材を輩出してきた古い歴史をもつ看護専修学校を母胎の一

つにして新設され、この地域における医療のニーズに応える義務のみならず、この地域で看護職をめざす若い人たちの期待にも応えなければと考えてきた。それ故、これまでの諸改革に当たっても、特に看護教育に関して、在学生、保護者及び高校教師からの意見や期待を聴取し、これらを参考にしつつ作業を行ってきた⁷⁻⁹⁾。

今回は、先の時代的要請⁹⁾が医療技術教育全般にも言及しているという考えから、岡山県の近隣県ともいべき3地域10県の高校生の進学志望と医療技術への関心との関連について、従来の調査の規模を拡大して調査を行ったので報告する。

目 的

近隣県の高校普通科に在籍する高校3年生の進学志望の実態を明らかにし、これとの関連で高校生の大学における医療技術教育への関心について実状を把握したいと考えた。

研 究 方 法

1. 対象

全国学校総覧¹⁰⁾をもとに中国地方5県、四国地方4県、近畿地方で隣接する兵庫県計10県の普通科を有する高校617校より、5分の1の系統的無作為抽出によって選んだ127校を対象高校とした。

2. 調査方法

各高校宛に郵送で依頼し、1996年7月10日より9月10日までの2か月の期間にアンケート調査を依頼した。質問内容は志望進路、志望分野(学科)、医療技術学科についての知識と関心、4年制との関連、看護学科への関心などに関するもので、選択肢を設けて回答を求めた。各校男女約30人の普通科学生に無記名記入して貰うよう依頼し、実施後郵送で回収した。本研究では3年生の回答についてのみ分析を行った。

結 果

回収できたのは表1に示す如く52校で、発送高校数に対する回収率は40.9%であった。回答を得た高校の数は県別にばらつきが見られ、理由は不

明であるが、夏休み前後の行事予定の都合であろうと考える。回答者数についてみると、合計1,998人で、高校別には男女計で最小は20人、最高は72人で平均38.4人であった。

表1 地域別調査対象高校数と回収率

地域	県名	校数	発送数	回答校数	回収率(%)	回答生徒数
中国地方	岡山	65	14	8	57.1	355
	広島	115	23	4	17.4	114
	山口	66	14	7	50.0	273
	島根	35	8	5	62.5	237
	鳥取	19	4	1	25.0	37
四国地方	香川	30	6	2	33.3	101
	徳島	22	4	1	25.0	3
	愛媛	57	12	8	66.7	262
	高知	35	7	4	57.1	111
近畿地方	兵庫	173	35	12	34.3	478
合計		617	127	52	40.9	1,998

表2 男女別志望進路 ()は%

	男子 891人	女子 1,077人
志望進路		
4年制大学	750(84.2)	584(54.2)
短期大学	11(1.2)	261(24.2)
専門学校	59(6.6)	159(14.8)
就職	54(6.1)	58(5.4)
その他	17(1.9)	15(1.4)

性別または進路不明者30名を除く

1. 男女別志望進路

表2の如く、男子は4年制大学(以下大学という)が84.2%と、短期大学(以下短大という)の1.2%に比し圧倒的に多い。女子は大学が54.2%と低くなり、その分短大が24.2%、専門学校が14.8%と高くなっていて、男女差が大きい。これらを合わせた進学希望者の率を進学志望者とする、男子92.0%、女子93.2%となる。これらを文部省の1994年10月の全国調査¹¹⁾の普通科男子の進学志望者87.4%、女子84.7%と比較すると、この地域は全国水準に比し進学志望者が多い地域であることが分かる。また表3は進学志望者の志望学校種を示したものであるが、全国調査結果の男子大学進学志望者89.3%、女子55.0%と比較して、この地域の進学志望者は大学進学を希望するものの率が高いことがうかがえる。

表3 進学志望者の男女別志望学校種 ()は%

		男子 820人	女子 1,004人
志望進路	4年制大学	750(91.5)	584(58.2)
	短期大学	11(1.2)	261(26.0)
	専門学校	59(7.2)	159(15.9)

表4 大学進学志望者の男女別志望分野 ()は%

		男子 820人	女子 1,004人
志望進路	文系	155(20.4)	344(40.7)
	理系	510(67.0)	218(25.8)
	医学系	37(4.9)	63(7.5)
	医療技術系	17(2.2)	127(15.0)
	その他	42(5.5)	93(11.0)

2. 男女別志望分野

表4の如く、文系の志望者が女子では40.7%であるのに対し、男子では20.4%と少なく理系との差が大きいのが特徴的である。先の文部省の調査結果¹¹⁾における人文科学、社会科学、家政、教育、芸術を合わせた率を文系とすると、男子52.8%、女子62.4%となって理系より多いのに対し、この地域では男女ともに理系志望が多いことが顕著な特色といえる。

3. 医療技術系への関心

医療技術系大学についての知識や関心を男女別、志望進路別、志望分野別に比較したものが表5で

表5 医療技術系大学^{註)}の認識及び関心

数字は%

人 数 (人)	性別		志望進路別			志望分野別			
	男子 (891)	女子 (1,077)	4年制大学 (1,357)	短期大学 (273)	専門学校 (219)	文系 (507)	理系 (739)	医学系 (102)	医療技術系 (146)
医療技術系大学(保健学科を含む)を知っている	63.8	82.5	76.0	76.9	75.3	76.1	72.5	97.3	95.2
知っている学科									
看護学科	68.8	86.7	75.3	79.1	86.1	82.2	74.4	87.3	98.6
診療放射線技術学科	28.6	50.3	48.5	34.4	39.3	33.3	36.4	56.9	84.9
衛生技術(臨床検査)学科	25.1	48.7	50.7	39.9	40.6	34.7	30.9	48.0	76.7
理学療法学科	36.4	53.7	30.9	44.3	35.6	32.7	47.9	67.6	83.6
作業療法学科	24.5	44.8	50.9	48.7	44.7	27.6	32.7	52.0	82.9
医療技術系大学に関心を寄せたことが									
ある	13.3	42.9	24.6	42.9	48.9	17.9	20.3	38.2	97.9
ない	74.4	41.9	62.3	43.6	37.0	68.6	66.0	43.1	1.4
その他	12.3	15.3	13.1	13.6	14.2	13.4	13.7	18.6	0.7
現在進学の対象として									
考えられる	7.0	23.1	10.9	30.4	32.4	3.2	7.4	18.6	93.8
考えられない	78.3	56.8	72.3	56.0	41.6	83.6	75.4	52.9	1.4
その他	14.6	20.1	16.8	13.6	26.0	13.2	17.2	28.4	4.8
4年制になれば…									
より関心を寄せようである進学の対象としてより	7.5	15.2	12.4	14.7	9.1	7.7	8.3	18.6	50.7
考えられる	5.7	9.1	7.4	8.8	9.6	3.9	8.0	11.8	19.2
特に関心はない	61.3	41.8	53.4	45.8	42.9	60.7	55.8	45.1	8.9
その他	25.5	33.9	26.9	30.7	38.4	27.6	28.0	24.5	21.2

註) 大学、短期大学両者を含む

ある。医療技術系大学への関心は大学への進学志望が高い男子において63.7%と少ない。また看護学科以外の医療技術系学科があることへの認識も男子において低い。同様に関心の度合いや進学対象としての認識も極めて低いことが分かる。

志望進路別にみると、大学及び短大を併せた医療技術系大学の認識は大差はないが、関心を寄せたことの有無や進学対象としての考慮は専門学校(専修学校を含む以下専門学校という)、短大、大学の順となって、特に大学志望者に低率となる。

しかし学科別の認識についてみるとやや傾向が異なり、診療放射線技術学科、衛生技術学科、作業療法学科の場合はむしろ大学志望者に認識が高い。志望分野別には当然ではあるが、医学、医療技

術系の志望者に認識が高い。ここで理系と文系について比較すると、文系志望者では看護学科、衛生技術学科について認識がかなり高く、特に看護学科において顕著である。理系志望者では診療放

表6 看護学科への関心

数字は%

人 数 (人)	性別		志望進路別			志望分野別			
	男子 (891)	女子 (1,077)	4年制大学 (1,357)	短期大学 (2,731)	専門学校 (219)	文系 (507)	理系 (739)	医学系 (102)	医療技術系 (146)
看護学科への進学を考えると はありますか									
はい	3.8	22.0	8.4	23.0	38.8	5.3	4.7	12.7	61.6
いいえ	86.6	63.3	80.6	61.5	48.4	80.5	85.7	73.5	31.5
その他	9.5	14.7	11.0	15.4	12.8	14.2	9.6	13.7	6.8
どのような学科を考えますか (複数回答可)									
人数 (人)	(34)	(237)	(114)	(63)	(85)	(27)	(35)	(13)	(90)
4年制看護学科	61.8	40.1	86.8	12.7	10.5	59.3	77.1	69.2	53.6
3年制看護学科	29.4	45.1	26.3	90.5	34.1	37.0	25.7	30.8	65.6
専修(専門)学校	29.4	43.5	15.8	25.4	82.4	18.5	14.3	30.8	20.0
そのうち第1志望は									
4年制看護学科	55.9	35.4	80.7	6.3	7.0	59.3	72.3	53.8	46.7
3年制看護学科	8.8	29.5	4.4	82.5	17.6	18.5	14.3	15.4	44.4
専修(専門)学校	23.5	31.2	7.9	7.9	70.1	11.1	5.7	23.1	4.4
無回答	11.8	3.8	7.0	3.2	4.7	11.1	5.7	7.7	4.4

表7 岡山大学の医療技術系教育課程への志望

数字は%

人 数 (人)	性別		志望進路別			志望分野別			
	男子 (891)	女子 (1,077)	4年制大学 (1,357)	短期大学 (2,731)	専門学校 (219)	文系 (507)	理系 (739)	医学系 (102)	医療技術系 (146)
岡山大学医療技術短期大 学部を進路として考える									
はい	1.8	5.1	2.0	13.2	1.8	1.0	0.8	1.0	34.2
いいえ	86.6	76.5	85.1	71.1	73.1	89.1	86.5	85.3	39.0
その他	11.6	18.4	12.9	15.8	25.1	9.9	11.4	13.7	26.7
4年制であったら考える									
はい(Y)	5.3	7.6	6.9	9.1	3.2	3.0	4.2	7.8	40.4
いいえ	77.3	65.5	73.0	64.5	65.3	80.3	75.1	61.8	22.6
その他	17.4	26.9	20.1	26.4	31.5	16.8	20.7	30.4	37.0
その場合志望学科は									
看護学科	1.1	3.7	2.7	4.0	0.5	0.1	0.4	1.0	22.6
	[21.3]	[48.8]	[38.7]	[44.0]	[14.3]	[33.3]	[9.7]	[12.5]	[55.9]
診療放射線技術学科	3.0	0.7	2.0	1.1	1.8	1.4	2.3	3.9	2.7
	[57.4]	[9.8]	[29.0]	[12.0]	[57.1]	[46.7]	[54.8]	[50.0]	[6.8]
衛生技術学科	0.8	3.2	2.1	4.0	0.9	0.6	1.4	2.9	14.4
	[14.9]	[41.5]	[30.1]	[44.0]	[28.6]	[20.0]	[32.3]	[37.5]	[35.6]
無回答	0.8		0.1				0.1		0.7
	[6.4]		[2.1]				[3.2]		[1.7]

[] 内ははい(Y)と答えたものに対する比率

射線技術学科，理学療法科，作業療法科が高く，特に理学療法科で男女差が大きい。

4年制になることを想定すると，医療技術系大学への関心は高まり，進学の対象として考慮するものも少なからぬ率で増加する。この傾向は男女ともに見られ，いずれの進路志望者においても増加するが，特に理系志望者や医療技術系志望者の期待が強いことが認められる。

4. 看護学科への進学志望

看護学科への進学を考えたことがあると答えたものの頻度をみると，表6の如く男子で3.8%，女子で22.0%で，女子では高率である。その場合選ぶコースはそれぞれの志望進路に対応したものが高く，第1志望についても同様であるが，特に大学志望者にはその傾向が強かった。文系・理系の志望別では大きな違いは認められなかった。

5. 岡山大学医療技術系コースへの進学志望

本調査では本学への志望状況を知るための設問も設けた。

現在の医療技術短期大学部を進路として考慮するものの率は表7の通りで，現在でも決して少ない率ではない。これが4年制になるとした場合，志望率は男女ともに増加するが，特に男子，大学志望者，理系志望者からの志望が増加する。学科別にみると，看護，衛生技術学科へは女子が，診療放射線技術学科へは男子が増加する。ただし，志望分野別にみると，短大志望者において減少する。これは看護職を志望する者にとっては，国家試験受験資格が必ずしも4年間の教育を必要としない現行制度を反映したものと見える。

考 察

我が国は高学歴化の時代に入ったとよく言われ，先進国のなかでも大学への進学率は米国に次ぐが，大学院への進学率は低いとされる¹²⁾。この傾向は普通科高校生が進学を希望する理由¹³⁾が「専門的な知識や技術を身に付けるため(男子29.8%，女子31.4%)」，「希望する職業に必要な資格をとるため(男子18.9%，女子36.4%)」，「就職や就職後の昇進に有利(15.4%，女子6.4%)」といった3点に集約されることとも関連している。即ち，大学進

学は終身制の雇用関係が強い我が国では，就職の前提条件といえるのである。このような背景のもとに，結婚・出産を期に離職することの多い女子では，ある程度の専門技術と資格を得て置くことが有利で，しかも短期に得ることできる医療技術系の短大や専修学校の利点からこの課程への進学率が一定程度保たれてきたといえる。しかし，それにもかかわらず医療技術者の慢性的絶対数不足を来しているのは，3Kあるいは5Kという言葉で表現される労働条件，仕事の内容，ストレスなどの面で多くの不利な点があるからである¹³⁾。即ち，先の進学理由から考えると，就職には有利であっても，就職後の昇進には不利，言い換えれば身分，処遇，給与面という点では保障が得にくかったという現実由来しているといえる。

このようなことから，大学志望の圧倒的に強い男子にあっては，医療技術教育への認識や関心は極めて低くなり，女子においても大学を志望する者にとっては関心を少なくしている現状を，今回の調査結果は如実に示しているといえる。

一方我が国の急激な社会的変化に伴い，医療従事者の量的，質的向上が現在期待されている^{14,15)}。看護婦教育課程の改正の趣旨¹⁶⁾に指摘されるこれからの看護に相応しい人材（他の医療技術者においても同様のことが言えよう）の確保のためには，本来門戸は広く広げて求めなければならない。しかし今回の結果が示すごとく，大学進学志望者にとっては，初めから実質門戸がないに等しい状況であって，これでは良い人材は得がたいことは明らかである。また今回の結果からいけば，現在進められている短大の4年制化は，大学進学を志望する男女両方に医療技術系への関心を呼び，明らかに志望増加させ，特に男子では診療放射線技術学科，女子では3学科ともに門戸を広げることになる。また今回の調査対象地域に多い，そして現状では医療技術系への関心の低い理系志望者に強い魅力を与えるであろう。これらの人材を医療技術系教育課程に一定の率で呼び込むことは，われわれの過去の調査で，高校教師が看護婦不足の理由としてきしているイメージ⁹⁾，すなわち一般的にいわれる3Kを改善することになり，それ

がまたさらに門戸を広げる好循環をもたらせることも明らかである。

また視点を変えるならば、現在各大学では18才人口減少への対応策が求められている現実がある。この点に関する調査¹⁶⁾では、短期大学における対策としては、「社会人の受け入れ」、「留学生の受け入れ」、「他大学との連携」、「4年制化」があげられており、特に国立大学においては8割以上が「4年制化」、「社会人の受け入れ」を挙げている。また全国短期大学の将来展望に関する調査¹⁷⁾では「女性の高学歴志向の強まるなかで、4年制大学への改組転換を目指すべきである。短大の活路は4年制大学への改組と専門学校化以外にはない」、あるいは「4年制の併設」とする意見が多い。さらに「医療技術系・看護系の教育は3年間で詰め込み教育となり、アメリカに比較して著しく遅れている」と指摘するものも少なくない。

これらは単に人口減に対する対策のみを意図するものではなく、現行の3年制課程では非常に困難な、課程の充実、大学院教育との接合、学際領域との交流、国際化時代への対応、生涯・継続教育の体制確立、地域社会との連携といったことの重要性を認識したもので、4年制への位置づけはこのような多くの課題の解消にもつながることが重要である。

以上述べた諸点を総括的に勘案するならば、現在進められている看護教育、特に医療技術短大の4年制への移行はさらに積極的に進められなければならないと考える。そしてそれを担うのは、国民の期待を負い、国民の負担の上に成立し、国民への奉仕を目標意識として持つ、有能で愛他的な専門家を育てる国立大学の使命¹⁸⁾ではないかと考える。

今回の調査では、さらに本学の現在および4年制移行の場合の志望状況に関しても調査しているが、本学への現在の志望はこの地域では高く、4年制になった場合はさらに増加する。男子の志望は3倍、現在でも低くない女子においても1.5倍になると推定される。志望学科は男子で診療放射線学科、女子では看護学科および衛生技術学科への志望が増加し、この増加は4年制大学志望者の中

からのもので、文系、理系は問わず増加する。すなわち4年制であれば、高校生にとって本学医療技術系への進学は極めて魅力的なものになるであろう。

しかし、現在の本学看護学科への進学志望者の中には、4年制への移行によって一定割合減少する者があることがわかる。これは職業学校として短大、専門学校への進学を位置づけている学生であると考えられ、これは現行の免許取得要件と関連するもので、ある意味では当然といえる。これらの志望者も、将来は4年制の増加、特に身近な4年制課程の増設によって変化していくと思われるが、当面はこのニーズに応えるため、各地にある専門（専修）学校を充実させることが肝要であり、現在進められつつある改革の方向もまた現実的かつ当を得たものであると考える。

む す び

以上、岡山県の近隣10県の高校生の進路志望の現況と医療技術教育の認識・関心の現状分析から、今後の大学における医療技術教育のありかたについて論じた。そして医療技術教育の整備・改革は、各地の医療技術短期大学の4年制化が軸にならないことを強く指摘した。これと医療職の待遇改善とを通じてこの分野に相応しい新しい人材を得て、来るべき高齢化時代に備えることは、我が国の今日的重要課題の一つであろう。

文 献

- 1) 文部省編：我が国の文教政策。大蔵省印刷局、東京、1996。
- 2) 文部省高等教育局企画課内高等教育研究会編集：大学の多様な発展を目指して（Ⅳ）大学教育の進展。ぎょうせい、東京、1995。
- 3) 「21世紀の自然科学系大学教育に向けて」編集委員会編：朝倉書店、東京、1994。
- 4) 岡山大学医療技術短期大学部：自己点検・評価報告書。現状と課題、1994。
- 5) 岡山大学医療技術短期大学部：自己点検・評価報告書。平成6年10月以降の改善と新たな課題、1996。
- 6) 厚生省健康政策局看護課編集：看護教育カリキュラム—21世紀に期待される看護職者のために。第一法規、東京、1992。
- 7) 荒川靖子、小野ツル子、小原ルリ子、伊藤久恵、喜多

- 鳴康一：短大看護学科への進路決定に影響する要因の研究。岡大医短紀要2：97-104, 1991.
- 8) 前田真紀子, 高畑晴美, 近藤益子, 太田武夫, 喜多嶋康一：看護課程志望高校生の看護職に対するイメージに関する研究。岡大医短紀要5：37-45, 1994.
- 9) 高畑晴美, 前田真紀子, 太田武夫, 喜多嶋康一, 近藤益子：進路指導を行う高校教師がもつ今後の看護課程についての認識。岡大医短紀要5：42-52, 1994.
- 10) 文部省大臣官房調査統計企画課編：全国学校総覧, 原書房, 東京, 1994.
- 11) 文部省：平成6年度学校教育と卒業後の進路に関する調査報告書, 1996.
- 12) 経済企画庁国民生活局編：国民生活指標, 大蔵省印刷局, 東京, 1989.
- 13) 日本医療企画編, 阿部正和, 幸田正孝, 羽田春免, 三浦文夫(監)：看護需給, WIBA'91：313-4, 1991.
- 14) 小田清一：医療をとりまく制度・しくみを理解する。荒井蝶子(編)：看護管理その3. 医療のしくみを知る。日本看護協会出版会, 東京, 13-22, 1994.
- 15) 荒井蝶子：拡大する看護の役割とその将来, *ibid.* 199-209, 1994.
- 16) 国土庁大都市圏整備局編：大学立地を地域づくりを考える。大蔵省印刷局, 東京, 89-96, 1995.
- 17) 高島正夫(研究代表)：短期大学改革の進展と将来展望。平成5-6年度科学研究非研究課題05306018, 119-128, 1995.
- 18) 国立大学協会編：文化学術立国をめざして。東京大学出版会, 東京, 242-243, 1995.

Senior high school students' recognition and interest in allied medical education of college

Takeo OHTA, Yasuaki SHIMOISHI, Jingo KAGEYAMA,
Koichi SHIBUYA, Hiroko TOHGE, Hiroshi ENDO¹⁾

Abstract

A survey was carried out by senior high school students in Okayama and nine surrounding prefectures from July through September, 1996. Data obtained from 1998 twelfth-grade students studying general courses at 52 schools were computed.

Eighty four percent of the 891 male students and 54.2% of the 1,077 female students wished to go on to senior college. Sixtyseven percent of the male students wished to enter science college courses, while only 25.8% of female students did.

The rate of students who knew about the course of allied medical science in senior or junior colleges was 63.8% for male students and 82.5% for female students. The nursing course was popular among both sexes, but other courses such as radiological technology, medical technology, physical therapy and occupational therapy were not well known, especially among male students.

It was thought that students wishing to go on to the senior college were not interested in those areas which were usually taught in three year courses at junior colleges or special (vocational) schools. Accordingly, the data showed that their interests in the allied medical course would be increased by the shifting it to a four year course.

To attract senior high school students who are both intelligent and talented in the medical and health field, the authors concluded that the further improvement of educational course for allied medicine, especially such as shifting to a four year course, and the bettering of position of comedical workers through it are needed.

Key words : the allied medical education, senior high school students, junior college, college, high school students wishing to go on to college

School of Health Sciences Okayama University